

JCI TC101A 【微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法  
調査研究委員会】

第3回 主査・幹事会 議事録 (案)

議事録担当：堤

■日 時：2011年5月17日(火) 15:00～16:40

■場 所：日本コンクリート工学協会 12階 第2会議室

■出席者：二羽委員長，安田副委員長，堤幹事長，鎌田 WG2 主査，岩波 WG3 主査，横沢  
委員，(事務局)川上

以上7名(敬称略)

- 資 料：1 第2回主査・幹事会 議事録  
2 第3回 全体会議 議事録  
3 JCI 研究委員会資料(平成23年2月28日)  
4 WG1(耐久性推移)の活動概要  
5 幹事会資料(補修・補強の現状調査と課題整理部会(WG3))  
6 各WGの今後の進め方  
7 資料-4 時間軸上での点検方法適用の例(会議中に追加配布)

■議 事：

1. 資料1～3について堤より説明があり，了承された。
2. 資料4について，田村 WG1 主査ご欠席のため出席者全員で内容を精読．意見交換を行った．主な意見は以下のとおり。
  - (1) 土木と建築で機能，性能の考え方に隔たりがある．建築では安全性に問題がなくとも，時代にそぐわなくなり(例えば建物にエレベータがない，LAN 回線を配線する余地がないなど)建て替えやリニューアルするケースが見られるが，土木では使い切るという観点からそのようなケースは少ないのでは．
  - (2) ただし，土木でも道路の幅員が狭く，交通に支障を来たして架け替えと言うケースもあるので，一概に土木，建築で隔たりがあるというわけではないのでは．
  - (3) (2)のように考えると土木，建築に接点がありそう．陳腐化によるリニューアル，リユース，といった場合に，非/微破壊試験がどのように使われるか，あるいは使い方があるか，課題は何か，といった視点で具体的な整理ができれば意味がありそう．
  - (4) WG1 のもう一つのテーマである耐久性のマニュアルの時代的変遷のまとめに加え(3)の視点で整理していくこととしたい(進め方は横沢委員が田村主査と協議する)。
3. 資料5について岩波主査から WG3 の取り組みの説明がなされた．資料のとおり検討

を進めていくこととした。

4. 資料6について、堤より、今後の各WGの活動方針(案)について説明した。新たに立ち上げるWG4についての方針は基本的に了承された。6月2日に研究委員会が開催されるので、その場での報告はWG4の立ち上げとその基本方針―従来のやり方を否定するのではなく、非/微破壊試験を取り入れたらプラスになることを示す―を委員長より説明して戴くこととした。
5. その他。
  - (1) 本委員会のニーズを引き出すために土木・建築に向けたアンケートを実施する。安田副委員長がアンケートのたたき台を作成。鎌田主査と内容を協議。
  - (2) 新たに立ち上げるWG4の主査は安田副委員長、幹事は岡本委員にお願いする。
  - (3) 本委員会の報告会(シンポジウム)は平成24年6月1日(金)開催を目標とする。報告内容は、①午前中に委員会活動報告、②午後は事例紹介の場とする(NEXCO, JR, 港湾, UR, 土研, 下水道等へ事例紹介の依頼を出す)。③基調講演を行うことも考える(魚本土研理事長に依頼予定)。会場は、東工大の施設を使えるか、二羽委員長が確認する。
  - (4) 次回全体委員会は6月23日(木)15時～17時。それまでに各WGは活動を行い検討を進めておく。

以上